

〈知的・情緒障害教育〉

進路学習における就労意識・働く意欲を高める指導方法の工夫  
—動画教材等の活用を通して—

沖縄県立大平特別支援学校教諭 知 念 美奈子

I テーマ設定の理由

平成20年1月に、中央教育審議会の学習指導要領等の改善について答申がとりまとめられ「進路指導に当たっては、関係機関との連携を図りながら、生徒が自分に合った進路を主体的に選択できるよう、早い段階からの進路指導を充実する」が提示され、進路指導を重要視した取り組みがさらに求められている。

沖縄県立大平特別支援学校は、児童生徒数295名の知的障害に対応した特別支援学校である。学校教育目標に「児童生徒が障害等による学習上または生活上の困難を克服し、自立を図るために必要な知識・技能・態度を身につけさせ、自立し社会参加できる人間を育成する」を掲げ、日々の実践に取り組んでいる。

高等部では平成20年度から、社会に適応しながら生活していく体力と能力の育成をめざし、可能な限り職業自立を図るという観点から、教育実践を展開している。特に進路指導に力を入れ進路指導の重点を「自己決定する力を育てる」においている。また、「教育活動全体をとおして勤労や社会参加への意欲を高めるよう配慮する」にも見られるように生徒の実態に応じて1学年の早い時期から適性を図るため、本人の進路希望調査を基に校外における現場実習を体験させている。進路指導を効果的に進めるため、学校の教育活動全体、特に週1回の「総合的な学習の時間」に進路学習を位置づけている。総合的な学習の時間では、各学年段階別に、勤労・社会生活に必要な年間指導計画を立て、自他の理解、コミュニケーション、働くことの意義や役割、余暇について等個々の発達段階に応じて課題を設定し、探求活動や問題解決活動を行っている。また、実態別のグループ学習だけでなく、学部全体、学年全体、学級、グループの再編成も行いながら、社会生活に必要な実際的な学習と卒業生を招いての進路講話、性指導等も行っている。進路学習では、現場実習、行事等の体験的な学習と関連させながら事前学習、事後の振り返り学習を進めてきたことで、働くために必要な知識・態度を意識させることができたが、主体的に課題に取り組もうとする態度につなげることが難しかった。

また、卒業後やってみたい仕事の問いに対して「仕事内容の理解が難しく希望職種を定められない」等自己の進路について具体的な将来像をもつことが困難な側面がみられる。卒業後の進路に関心を持たせるため、様々な職業に関する本や、絵、写真、参考資料を活用しながら取り組んできたが、この課題に対するさらなる対応の必要性を感じている。

知的障害のある子供の学習上の特性として、学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の生活に応用されにくいことや、成功経験が少ないことなどにより、主体的に活動に取り組む意欲が十分に育っていないことがみられる。また、実際的な生活経験が不足しがちであるとともに、抽象的な内容より、実際的・具体的な内容の指導が効果的である、とされている。仕事に親しみをもたせ、実感を伴った理解を図り、仕事に対する意識を育てるには、実際にいろいろな職場へ出かけて、体験することが効果的な方法であるが現実的には難しい状況にある。

そこで、本研究では職業理解を容易にするために、生徒の興味・関心のある仕事や課題、卒業生の働く様子を撮影した動画教材を作製し、授業に活用していくことで体験的活動を補っていく。作製した動画教材とワークシートを関連づけて効果的に活用する。そうすることで、具体的な進路選択ができ、自己の課題に気づき、主体的に課題に取り組もうとする意欲が高まるのではないかと考え、本テーマを設定した。

〈研究仮説〉

進路学習において、動画教材とワークシートを作成・活用することで仕事への知識を広めることができ、就労意識・働く意欲を高めることができるであろう。

II 研究内容

1 進路指導及び進路学習について

(1) 本校の進路指導の現状

本校は、小・中・高と学部が上がるにつれ生徒数が増え、障害の特性や程度も多様であるという

特徴をもつ。職業教育及び進路指導の充実を図るため、児童生徒一人一人の障害の状態や特性等及び発達段階を十分に考慮し、関係機関との連携を密にした職業教育や進路指導を行い、可能な限り社会自立、職業自立を目指している。

進路指導の取り組みでは、児童生徒の学習を中心とした進路学習、保護者に対する啓発・連携、学校職員に対する情報提供、連携、企業や労働・福祉行政機関等外部との連携、将来の適切な進路先の確保等を行っている。

高等部では、生徒個々の実態に応じた適切な進路選択が最も重要なことだと考え、実習ごとに生徒が希望する職業を把握するため、進路希望調査や三者面談を実施し、本人・保護者の希望や進路の方針などを話し合い共通理解することで、希望に沿った実習先を決める。それが生徒や保護者のニーズに応えることに繋がり、保護者の理解や協力、生徒の働く意欲に繋がると考えている。

## (2) 本校の進路指導の課題

近年、障害者雇用の動きが進んでいる中、保護者の就労への関心が高まっている。しかし、希望する職種を「なんとなく」という理由で選んでいる生徒もおり、就労意識・働く意欲が低い。

学校の役割は、生徒個々の障害の特性や程度を見極め、個に応じた進路指導であることから、個々の生徒の実態把握のため高等部では実習評価が重要となっている。実習先から学校側への具体的な課題として、就労意欲、言葉遣い、挨拶・返事、報告・連絡・質問、時間のけじめ、コミュニケーション能力、社会のルール、生活習慣等、基礎・基本的な態度が課題にあがっている。これらの課題解決のためには、進路学習を通して一人一人が、進路選択及び決定ができる能力や態度を身に付け、自己を理解し、将来の自己実現に向けて主体的に取り組む意欲や態度の育成が必要であると考えられる。

## (3) 進路学習の取り組み状況

進路指導を効果的に進めるため、進路学習は週1時間の総合的な学習の時間の中で取り組んでいる。進路学習では、自他の理解、コミュニケーション、働くことの意義や役割、社会のルール、性指導等を内容として取り上げている。また、前期・後期の現場実習に向けての事前事後の取り組みや卒業生を招いての進路講話を通し、働くことの意識づけ、準備性、卒業後の生活（余暇の過ごし方等）について考える機会を持った。

しかし、卒業後の進路について仕事や仕事内容など具体的な夢や希望を言い表すことが難しかった。この背景には、進路に関する様々な情報を把握していないこと、自分の力に対する客観的な理解が十分にできていないこと等、知的障害からくる困難さが考えられる。知識だけでなく、夢の実現のためには「今どうしたらよいのか」を考える機会を設け、態度の育成につなげる必要がある。

## 2 動画教材について

知的障害を有する生徒は、実際的な生活経験が不足しがちであるとともに、抽象的な内容より実際の・具体的な内容の指導が効果的であると言われている。そのため、一般の職業参考本やインターネットを利用した調べ学習では、仕事内容の解説が難しすぎたり、写真だけでは働く様子をイメージしにくいと職種や仕事内容の理解に困難さが見られる。そこで、職業理解を容易にし、イメージを図りやすくするため、生徒の興味・関心のある仕事や、卒業生の働く様子を撮影した動画教材は、体験的活動を補うためには有効ではないかと考える。動画教材は、いつでも何度でもくり返し見られることから、生徒自ら操作して情報を得られるように作製する。動画教材に、仕事内容、実際に仕事に就いている人の話、仕事に就くために必要な課題を内容として入れ、生徒自ら興味・関心のある職種を調べること、仕事への知識を広め、卒業後の仕事について考え、仕事に就くための課題があることに気付くのではないかと考えられる。

## 3 ワークシートについて

知的障害を有する生徒は、いくつかの情報の中から、必要なものに注目したり、関連づけることや学習内容の記憶に困難な状況が見られる。指導の目標に照らした課題に自ら取り組むことができるように、指導方法を工夫する必要がある。つまり、一つの単元を生徒の実態に即して細分化し、それに合った指導方法、指導目標を工夫することが大切である。そのためそれぞれの目標に合ったワークシートの活用は、視覚的に目標を確認でき主体的に学習課題に取り組むことができるのではないかと考えられる。進路学習ファイルとして綴り、授業始めに前のワークシートを確認しながら授業を進めることで、学習の理解を図りやすくすることができるのではないかと考える。

## 4 動画教材やワークシートの活用について

職業理解を容易にするために、生徒の興味・関心のある仕事、仕事内容、資格、仕事に就くために必要な課題や卒業生の働く様子を撮影した動画教材により仕事の知識を広げることができ、具体的な進路選択ができるのではないかと考え、また、ワークシートを活用して自己評価、他者評価することで、自己の課題に気づくことができるのではないかと考え、さらに課題を意識した取り組みによる成功体験により、主体的に課題に取り組もうとする意欲の高まりにつなげることができるのではないかと考え、図1のように動画教材やワークシートを活用した学習活動の展開を構想し、計画を立てることとした。

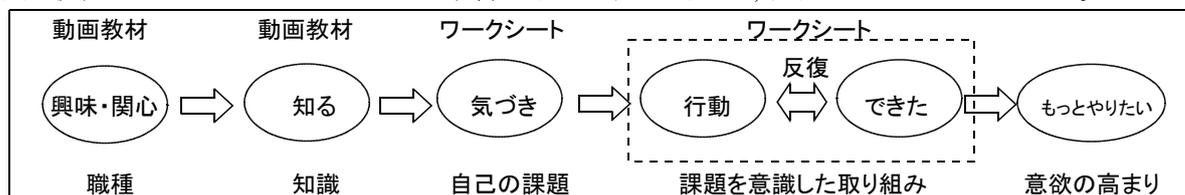


図1 動画教材やワークシートの活用

### Ⅲ 研究の実際

#### 1 対象生徒の実態

本研究の対象の生徒6名は、表1に見られるように軽度～中度発達遅滞にあり、個別の教育支援計画から全員が一般企業への就労を希望し、一般企業における実習を経験している。実習先から出されている課題は、主にコミュニケーションが挙げられており、個別の教育支援計画の長期目標、短期目標に設定されているが、主体的に課題に取り組もうとする様子は見られない。また、希望する職種を「かわいから」「かっこいから」「なんとなく」という理由で選んでおり、軽易な職業選択になっている。

学習面では、字の読み書きができ、プリント学習、一斉授業にも対応できる。また、パソコンを活用した調べ学習を好み、操作も容易にできるため、放課後インターネットを利用したパソコンの利用が活発である。

表1 対象生徒の個別の教育支援計画

生徒	IQ	個別の教育支援計画		
		長期目標	短期目標	進路指導(必要な支援)
a	48	・落ち着いて自分の意見や考えをはっきり発言する。	・場に応じた適切な挨拶や言葉づかいをする	・一般就労希望 ・就職について意識を持たせる。
b	40	・丁寧な言葉使いで自分の意志をはっきり表現できる。 ・相手の話を集中して聞く。	・係活動や学校行事に積極的に参加する。	・一般就労希望 ・就職(仕事)への関心を持たせる。
c	70	・感情のコントロールをすることができる。 ・場面に応じた正しい言葉づかいができる。 PDD(広汎性発達障害)	・丁寧な言葉づかいで話すことができる。	・一般就労希望 ・本校卒業生の進路状況や地域の作業所等施設に関する情報を提供。
d	55	・言われなくても整理整頓ができる。 ・落ち着いて行動することができる。	・聞き取りやすい声の大きさとで発表できる。	・就労支援事業所希望 ・就労支援事業所や就労移行施設の資料を提供する。
e	46	・自分の思ったこと感じたことをまとめ大きな声で発言できる。 ・コミュニケーション能力の向上。	・感情のコントロール。	・一般就労希望 ・本人の希望に近い進路先を調べ、情報を交換する。
f	記録なし	・場に応じたコミュニケーションがとれる。	・他者からの指摘等を素直に受け入れる。	・一般就労希望 ・本人と保護者、進路部と連携し、納得いく進路を見つける。

#### 2 動画教材の作製

この教材では、生徒自ら簡単に操作して情報を得られるように細かい分類は避け、職種を一覧から選んで調べられるようにした。仕事内容、動画、実際に仕事に就いている人の話、必要な資格、仕事に就くために必要な課題と順を追って観られるように作製した。また、動画や内容に注目させるため、イラストやアニメーションは避けた。(1)～(5)までは考慮した内容である。

##### (1) 職種について

対象生徒が全員一般就労を希望している。しかし、企業の求める人材は、業務内容からみて知的

障害者の就労は困難なものが多くある。主な進路先も製造業からサービス業（スーパー、食品加工、クリーニング業、清掃業、ホテル業、老人介護事業、保育園、造園業、自動車販売、運送業）等、へ移ってきている。そこで本校の卒業生の進路先から、生徒の興味・関心のある職種、食品加工、クリーニング、介護施設、保育園、パン屋、スーパー、販売業、コンビニエンスストア、レンタカー、スポーツ店の10ヶ所、また、生徒から特に要望のあった職種から、建築業、ネイルアートの計12ヶ所を選び作製した。

- (2) 仕事内容について  
 清掃、皿洗い、洗車、ベッドメイキング等、全部で20種類の職種を撮影し、生徒が理解しやすいよう仕事内容別に簡単な説明を加え、生徒がイメージしやすいように工夫した。
- (3) 動画について  
 動画は生徒が集中できるように、仕事内容別に1分～2分に編集した。
- (4) 仕事に就いている人の話  
 仕事をしていて楽しいこと、大変なことの2つを挙げた。
- (5) 仕事に就くために必要な課題  
 企業から学校へ出されている課題、挨拶・返事、コミュニケーション、指示を受ける態度等を表2のように8つにまとめ、生徒が理解しやすいような簡単な文章表現にした。すべての職種に共通する課題とした。

表2 8つの課題

- あいての顔を見て、笑顔で大きな声で、あいさつ返事ができること
- 職場の人と、一緒にすごし、仲良くできること
- ていねいな言葉づかいができること
- 報告や連絡、わからないことは、素直に聞いて教えてもらうこと
- ていねいに、正確に、はやく作業ができること
- 清潔な身だしなみ(爪、ひげ、髪の毛)ができること
- 時間を守ること。
- 安全に行動できること

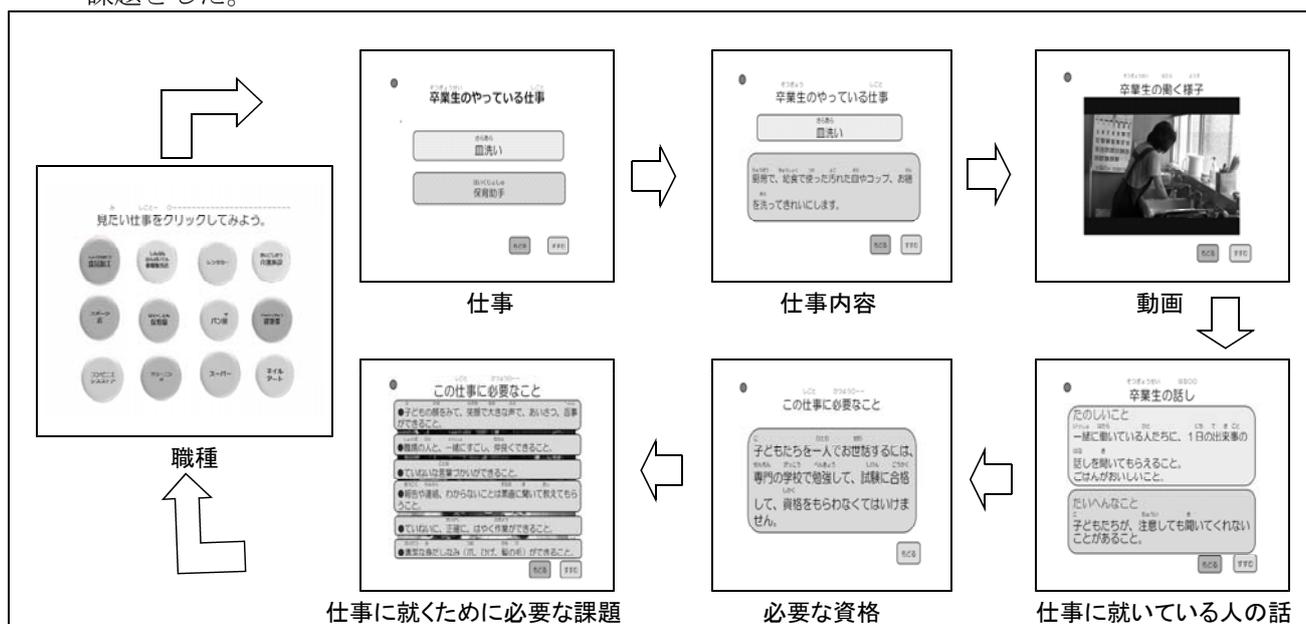


図2 動画教材の流れ

### 3 ワークシートの作成と活用

知的障害を有する生徒は、いくつかの情報の中から、必要なものに注目することや、関連付けたり学習内容の記憶に困難な状況が見られる。そのため学習の流れを、3段階に分け、ワークシートを使って関連付け、振り返りを行いながら授業を進める。ワークシートは生徒に注目させたい内容をそれぞれの段階に合わせて作成した。ワークシートのA～Iは図3と対応している。

- (1) 動画教材検索のためのワークシート
- ① ワークシートA  
 動画教材を観ながら調べたい職種を記入する。
  - ② ワークシートB  
 動画教材を検索しながら、調べた仕事、仕事内容を記録し、気になったことを記入する。
  - ③ ワークシートC  
 ワークシートBの中から、気になる仕事、やってみたい仕事を選び、選んだ理由を記入する。

(2) 自己の課題への気づきのためのワークシート

① ワークシートD

選んだ仕事に就くための課題が達成できているのか自己評価するワークシート  
仕事に就くために必要な課題の項目に

ついては、動画教材と同じ内容で、企業から学校に出されている8つの課題を挙げた。

表3 自己の気づきのためのワークシートD

仕事につくために必要なこと	あてはまるところに まるをつけてください。		
あいての顔を見て、笑顔で大きな声で、あいさつ返事ができること	できる	もうすこし でできる	できない
職場の人と、一緒にすごし、仲良くできること	できる	もうすこし でできる	できない
ていねいな言葉づかいができること	できる	もうすこし でできる	できない

② ワークシートE

他者評価では、実際に企業から出された実習評価を個別に作成した。

③ ワークシートF

ワークシートDとワークシートEを見比べながら、8つの課題をワークシートのFに記入する。視覚的に課題が分かるように項目を良いところ、頑張ることの2つに分けた。

表4 課題取り組みのワークシートH

よくしていきたいこと		
	本人	職員
できた◎ もうすこしでできる○ できなかった×		
今日良かったこと		
今日の課題		

(3) 課題解決に向け計画を立て、取り組むためのワークシート

① ワークシートG

ワークシートFから取り組む課題1つを絞り込み記入する。

② ワークシートH

絞り込んだ課題を学校生活の中で取り組み毎日の評価を記入するためのワークシート。

取り組む課題、自己評価、今日良かったこと、今日の課題を記入し担当職員から評価をもらう。

③ ワークシートI

一週間を振り返り、課題解決に取り組んだ感想を記入する。

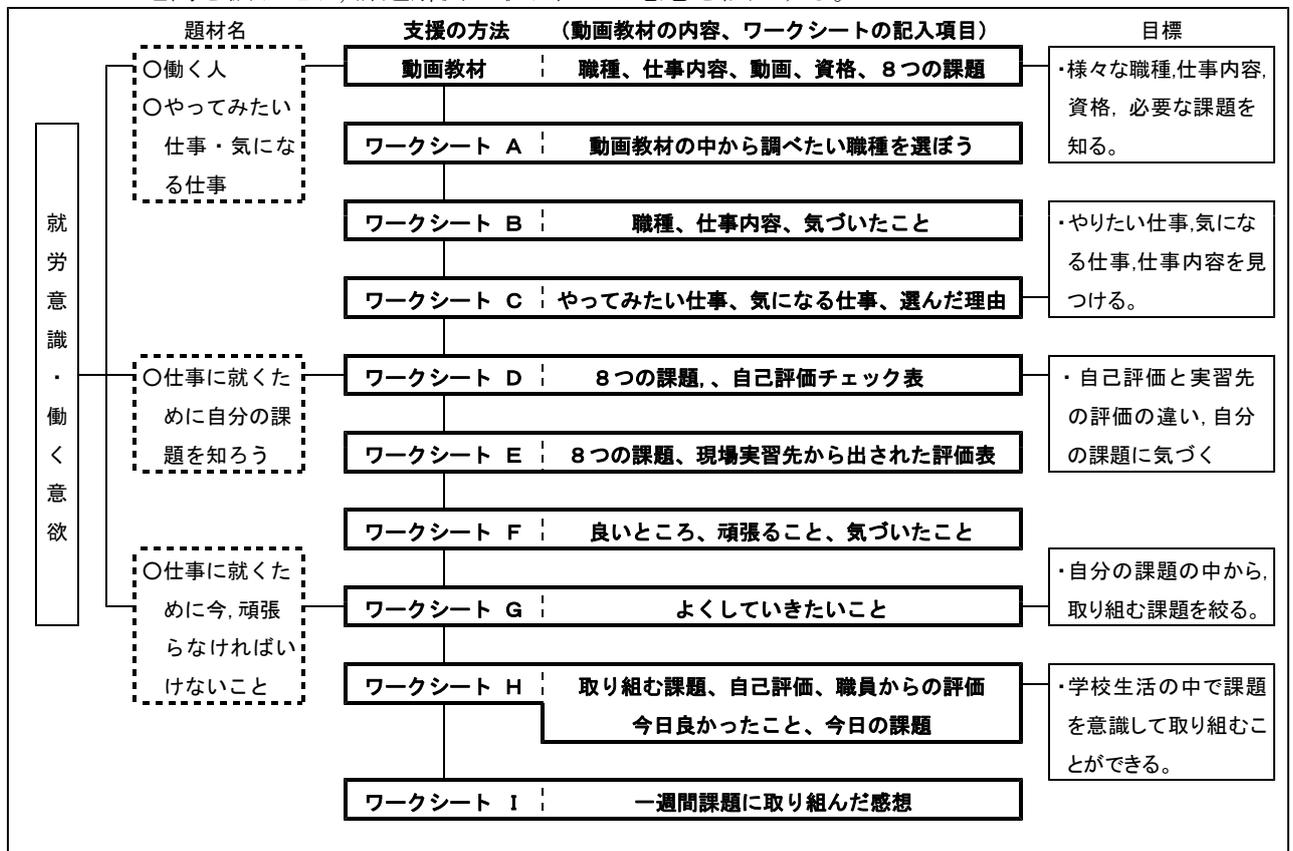


図3 動画教材やワークシートを活用した授業の構想図

## IV 授業の実際

### 1 動画教材やワークシートを活用した進路学習実施計画

この学習活動では、職種に対する理解を深め卒業後やりたい仕事について考えることを通して、自己の課題への気づきにつなげ、課題解決に取り組もうとする意欲や態度の育成を目指す。

題材の展開に当たっては、表5のとおり動画教材やワークシートを活用した学習活動の展開を構想し、指導を行う。

表5 動画教材やワークシートを活用した進路学習、課題取り組みの実施計画

段階	時	題材名	指導目標	生徒の主な活動内容	支援資料	評価の観点
一段階	3	働く人	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業生は様々な職種に就いていることを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動画教材を見せながらこれから行う学習について知る。</li> <li>動画教材を見ながら調べたい職種を選び記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動画教材</li> <li>ワークシートA</li> <li>進路学習ファイル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職種について興味・関心を持つことができたか。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な職種、仕事の内容を知り、必要な資格や課題に気づくことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動画教材検索</li> <li>各自で動画教材を検索しながら、職種を選び、職種、仕事内容、気づいたことをワークシートへ記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動画教材</li> <li>ワークシートB</li> <li>進路学習ファイル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動画教材を活用することで、様々な職種、仕事内容、必要な資格を知ることができたか。</li> </ul>
	1	やってみたい仕事、気になる仕事	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業後やってみたい仕事、気になる仕事、仕事内容を見つけることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動画教材で調べたワークシートの記録を見ながら、卒業後やってみたい仕事、気になる仕事、選んだ理由をワークシートへ記入する。</li> <li>やってみたいこと、やれそうなこと、できると思う仕事を考えながら記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートC</li> <li>進路学習ファイル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>やりたい仕事、気になる仕事、仕事内容を見つけることができたか</li> </ul>
二段階	2	仕事に就くために自分の課題を知ろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>希望する仕事に就くために、必要な8つの課題ができていくかワークシートを使ってチェックする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートD</li> <li>進路学習ファイル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価と、企業から出された実習評価の違い、自分の課題に気づくことができたか。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価と後期実習評価を見比べて、違いに気づくことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価と後期実習評価を見比べて違いを探す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートE</li> <li>進路学習ファイル</li> </ul>	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の課題に気づくことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価、企業からの実習評価を見比べながら、8つの課題を良いところ、頑張ることに分けてワークシートへ記入する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートF</li> <li>進路学習ファイル</li> </ul>	
三段階	1	仕事に就くために今、頑張らなければいけないこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活全体でも課題に取り組まなければいけないことを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業後、仕事に就くためにもっとよくしたいところ、がんばることをワークシートを見ながら振り返る。</li> <li>実現するために学校生活全体を通して取り組まなければいけないことを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>掲示物</li> <li>進路学習ファイル(ワークシート)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業後やりたい仕事、気になる仕事に就くために、学校生活の中で課題解決に取り組むことの必要性に気づくことができたか。</li> </ul>
	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>仕事に就くために自分の課題解決に向けて取り組まなければいけないことを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いくつか上げた自分の課題の中から、取り組む課題1つを絞り込みワークシートへ記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートG</li> <li>進路学習ファイル</li> <li>掲示物</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の課題の中から取り組む課題を1つ絞り込むことができたか</li> </ul>
		一週間、学校生活の中で課題を意識して取り組む	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題を意識して取り組むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>しぼりこんだ課題を毎日ワークシートに記入し、学校生活の中で実践し、毎日の評価、今日良かったこと、課題を記入して担当職員から評価をもらう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートH</li> <li>進路学習ファイル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題を意識して取り組むことができたか。</li> </ul>
	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>課題に取り組んだ一週間を振り返ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一週間を振り返り、課題解決へ向けて取り組んだ感想をワークシートへ記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートI</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題に取り組んだ1週間を振り返ることができたか。</li> </ul>

## 2 検証授業

### (1) 検証授業 1

① 題材名「働く人」「やってみたい仕事, 気になる仕事」

② ねらい

○動画教材を活用し, 様々な職種, 仕事内容, 必要な資格を知り, 課題に気づくことができる。

○動画教材で調べたワークシートの記録を見ながら, 卒業後やってみたい仕事, 気になる仕事を見つけることができる。

③ 検証授業の結果

動画教材を自ら操作し, 興味・関心のある職種を何度も繰り返して見る場面が多く見られた。

当初, 3時間予定していた授業であったが, 希望で1時間延長するなど生徒の積極的な学習活動が見られた。

この活動を通し, 表6に見られるように生徒は, 職種ごとの仕事内容, 必要な資格を把握することができ, さらに共通する働く上で必要な8つの課題を知ることができた。その上で職種の選択理由が表7のように「かわいいから」といった表面的なものから, 自身の得意な部分を活かした考えへと変容を見せた。

④ 課題

配色や前のシートに戻るボタンの設置等, 動画教材の操作をやさしくするための工夫が必要である。

表6 動画教材で調べ学習を行った生徒の気づき(ワークシートから抜粋)

生徒	生徒の気づき
a	・わたしはどの職場でも, 笑顔で挨拶とていねいな言葉づかいと職場の人と仲良くすることは一番重要だと思いました。 ・卒業しても掃除は基本だと思いました。
b	・てのはやさ, スピードがきになりました。 ・しごとをしたらじかんとみだしなみもチェックされる。 ・しごとをしているひとたちってすごいとおもいました。
c	・専門学校で学んで試験に合格して, 資格を取得しなければならないことです。
d	・たのしいことは「ありがとう」とよろこんでもらえたとき。大変なことはおきやくさまにまんぞくしてもらえるように仕上げないといけないところ。
e	・力をださないとしごとができないこと。 ・そうじをキビキビうごかないとすずまないとおもいました。
f	・店の外の掃除はどこからどこまでやるんですか。何時間たちっぱなしなんですか。



写真1 動画教材を使った授業の様子

表7 4月当初、動画教材検索後の生徒の希望職種・仕事内容・選んだ理由の変化(ワークシートから原文抜粋)

生徒	4月当初			動画教材検索後		
	職種	仕事の内容	選んだ理由	職種	仕事の内容	選んだ理由
a	ネイルアート	人のためにぬること	かわいいから	スポーツ店	店内清掃 商品の出入れ	・自分にあう仕事だと思いました。清掃と出し入れが得意なのでやってみたいです。
b	建築	マンションつくる	カッコいいから	クリーニング	ハンガーかけ	・パソコンでみたのがりゆうでした。
c	保育園	児童たちの交流	バイトしたい	事務	パソコン操作	・僕はパソコンを使って, ワードやエクセルでの能力を身につけて就職活動がしたいです。
d	映画館	チケットくばる	なんとなく	スーパー	品物並べ	・実習したけれどもう1度やってみたい。
e	くるまの仕事	せんしゃ	先輩がやっている	レンタカー	洗車	・せんしゃをしてくれるまが, きれいになるのがたのしかったです。
f	クイズ	ばんぐみに出たい	テレビで見るから	レンタカー	洗車	・車が大すぎて, あらうことがすきななので, ぼくにむいていると思ったからです。

### (2) 検証授業 2

① 題材名「仕事に就くために自分の課題を知ろう」

② ねらい

ワークシートを活用しながら, 仕事に就くための8つの課題を自己評価し, 企業から出された

現場実習先からの評価を比べることで、評価の違い、自分の課題に気づくことができる。

③ 検証授業の結果

生徒達は、ワークシートで自己評価を行い、企業からの実習評価と見比べたことで、表8に見られるように自分自身の課題に気づくことができた。

④ 課題

時間内の記入が難しい生徒がいた。2つの評価を見比べて記入しやすくするための支援の工夫が必要である。

表8 自己評価と企業からの実習評価の違い、生徒の自己の課題への気づき（ワークシートから原文抜粋）

生徒	自己評価と企業からの実習評価の違いと課題		生徒の気づき
	違い	課題	
a	1カ所	2つ	・「職場の人と、一緒にすごし、仲良くできること」と「ていねいに、正確に、はやく作業ができること」が気づきました。 ・できたところをもっとのばし、なおしてほしい所をなおそうと思いました。 ・人とのつきあいは大切だと思います。
b	1カ所	1つ	・がんばる。
c	3カ所 (すべてできたと評価)	3つ	・すべてできていると思っていた。 ・「職場の人と、一緒にすごし、仲良くできること」「ていねいな言葉づかいができること」「安全に行動できること」3つの課題点が必要だと思いました。
d	3カ所 (すべてできたと評価)	3つ	・ぜんぶできていると思っていた。
e	4カ所	6つ	記入なし
f	7カ所	8つ	・ていねいな言葉づかいをもう少しやればよかったと思いました。

(3) 検証授業 3

① 題材名 課題解決への取り組み「仕事に就くために今、頑張らなければいけないこと」

② ねらい

自分の課題の中から取り組む課題を1つに絞り込み、ワークシートを活用して、学校生活で課題を意識して取り組むことができる。

③ 取り組みの結果

生徒自身が自分の課題の中から取り組む課題を1つに絞り込むことができた。学校生活で実践した課題解決の取り組みでは、表10の各担当者の評価から、これまで課題を意識した行動を取ることのなかった生徒達が、ワークシートで課題を確認、自己評価、担当者から評価をもらうことで主体的に課題を解決・改善しようとする様子が見られた。しかし、生徒が異なる見解を言われると、どちらの意見が正しいのかと不安に感じる様子が見られるという意見もあった。

④ 課題

担任と授業担当者の共通理解を図るための情報共有の工夫が必要である。

表9 取り組んだ課題と課題解決に取り組み終えた生徒の感想（ワークシートから抜粋）

生徒	絞り込んだ課題	課題解決に取り組み終えた生徒の感想
a	・身近な人と仲良くするために、相手の顔を見て、笑顔で大きな声であいさつ返事ができること。	・身近な人と仲良くするために笑顔で挨拶をがんばりました。 ・1週間前の自分と違って少し変わってきました。 ・できていない所は、卒業までに目標達成したいと思います。 ・仕事についても、笑顔で挨拶が一番大事だと思いました。 ・職場の人に厳しいことを言われても、自分から返事をしていきたいです。
b	・ていねいにせいかくに早く作業ができるようになるために、よそみをしてしない。姿勢を正す。	・がんばったと思いました。 ・1週間はみじかい。もっとそつぎょうするまでがんばりたい。 ・くいがないように1日1日をたいせつにつかかってがんばりたい。
c	・丁寧な言葉づかいができること	・最初はやってもダメだと思いましたが「◎」もらったのがいちばんうれしいです。
d	・報告や連絡わからないことは素直に聞いて教えてもらうこと。わからない時は「わかりません教えてください」と言う。	・毎日言われなくても頑張りました。 ・もっと頑張りたいです。 ・次の目標をたっせいしたいです。

e	・あいての顔を見て、笑顔で大きな声で、挨拶返事ができること。	・むずかしかったけどできたとおもいます。
f	・あいての顔を見て、笑顔で大きな声で、あいさつ返事ができること。	・さいしょは、むずかしかったけれど、うまくいけたのでとてもうれしい。 ・ちがう目標をかえてもう1回やりたいです。 ・さいしゅう目標は、にがてなのをすべてなおしたい。がんばりたいと思います。

表10 生徒の取り組みの様子(担当教師の評価から抜粋)

生徒	担当教師からの評価
a	・自分の目標をしっかりと理解して取り組んでいた。 ・1日の反省を指示がなくても行うことができ取り組みに対する意識の高さがうかがえた。 ・笑顔という部分はかなり苦心しているようだが、挨拶を進んで行うことはできている。 ・マラソン大会で校外に出た時も、地域の人に積極的に声かけをしていた点をみても評価できる。
b	・座位の姿勢が悪い時に、目が合うだけで「あっ」と正すことができた。 ・初日のみ記入の仕方を説明しただけであとは自分で行っていた。
c	・ファイルで目標を確認していることで、取り組むべき事柄をしっかりと理解し意識して行っていた。 ・丁寧な言葉づかいではないときにハッと気がつき「失礼しました」と言っていた。
d	・実践あり。 ・その度ごとに意識できる声かけを行っていくと本人なりにがんばることができる。
e	・指示なくてもファイルに目標を書いていた。自己評価を真剣に考えて的確にコメントを書いていた。 ・本人なりに少しずつ成長していることがわかる。
f	・とても意識していた。毎日忘れずに目標や評価を確認していた。 ・目標を達成できている。 ・気分にもうらがあるが、取り組んだ時間は上機嫌でやる気がありました。

### 3 仮説の検証

#### (1) 動画教材の活用により仕事への知識を広めることができるか

動画教材を自ら操作し、興味・関心のある職種を何度も繰り返して見る等、生徒が積極的に調べ学習を行っていた。動画教材を活用して調べ学習を行ったことで、職種、仕事内容、必要な資格、8つの課題に気づくことができた。また、動画教材で仕事への知識を広めたことで、希望する職種、仕事内容、選んだ理由が表面的なものから自分の得意な部分を活かした考えへと変容を見せた。このことは、動画教材の活用により、職種、仕事内容などのイメージ化を図ることができたものと考えられる。このことから、動画教材の活用は仕事への知識を広めることができると考える。

#### (2) 動画教材とワークシートを活用することで就労意識・働く意欲を高めることができるか

生徒達が、就労意識・働く意欲を高めることについて、動画教材やワークシートを活用した取り組みを行った。その結果、検証授業を通して、生徒が自らの「課題の気づき」につなげることができた。この「課題の気づき」は、学習課題を視覚的に表示することができる動画教材やワークシートの活用が有効に作用したのと考えられる。すなわち、学習内容のイメージ化である。この学習のイメージ化は、学習内容や活動の理解を容易にすることから、生徒自身が課題解決や目標達成に向けて取り組み内容がわかりやすく、その結果主体的にその解決・改善に向けて行動の変容にもつながったものと考えられる。

また、ワークシートの活用で自身の課題を常に意識できる状況を作ることができ、目的意識を持った行動に直結した。これらのことから、知的障害のある生徒にとって、自らの取り組むべき課題発見や内容の把握は、視覚的な表示が有効であることがいえる。そして、動画教材やワークシートは、効果的な方法の一つであることが明らかにできたと考える。このことから、動画教材やワークシートの活用は、就労意識・働く意欲の高まりにつなげることができると考える。

## V 成果と課題

本研究は、動画教材やワークシートを活用し、就労意識や働く意欲を高めることを目指して取り組んできた。その結果、生徒が自らの課題に気づき、その解決・改善に向けて取り組む様子が見られ、主体的な行動への変容につながられた、という結果が得られた。一方で、動画操作の工夫やワークシートの活用方法

などに工夫の必要性が認められるなど課題も残った。

## 1 成果

- (1) 指導実践に活用できる動画教材を作製することができた。
- (2) 動画教材, ワークシートの研究を通して, 視覚教材, 振り返りは知的障害のある生徒にとって有効であることがわかった。
- (3) 動画教材, ワークシートの活用は, 生徒に自分の課題を気づかせることに有効であった。

## 2 課題

- (1) 動画教材の操作をやさしくするための工夫。
- (2) 理解しやすくするためのワークシートの内容の見直し。
- (3) 共通理解を図るための情報共有の工夫。

### 〈主な参考文献〉

文部科学省 2009 『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編 (高等部)』

吉田昌義・藤田誠・関口トシ子 進路指導 21 研究会編 2008 『特別支援教育 (知的障害・自閉症) における進路指導・支援』

沖縄県 2008 『障がい児の保護者と支援者のための就労支援ガイド～障がい児の「将来働きたい」を応援する～』



















